

長野県林業総合センター - ミニ技術情報

11 平成11年5月 1999.May.

長野県林業総合センター - 塩尻市片丘 5739

Nagano-prefectural Forestry Research Center

TEL 0263-52-0600

FAX 0263-51-1311

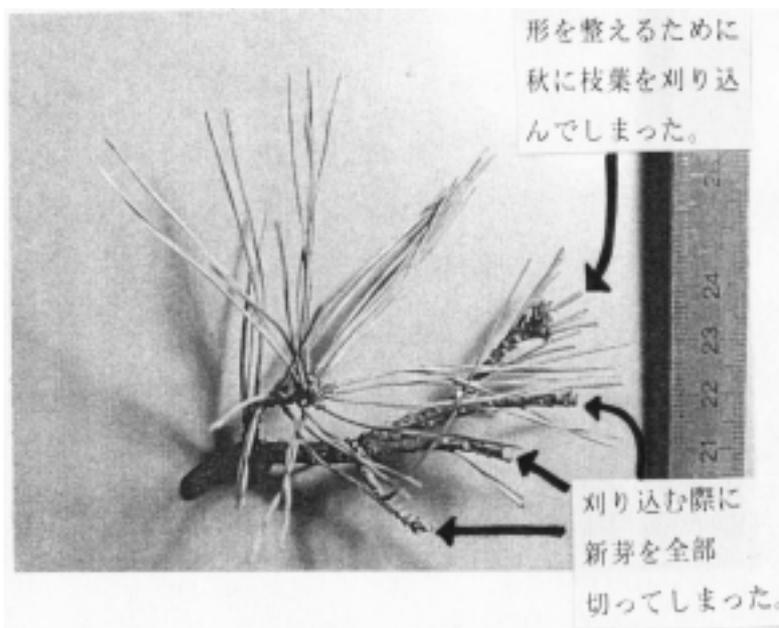
マツの剪定

キ-ワ-ド:マツ、手入れ、整枝剪定

庭木の剪定は、木を好みの形に美しく整えながら、適正な大きさを維持していくために欠かせない作業です。また剪定することにより、日照や通風をよくして庭木の健全な生育を促し、病虫害の発生を予防することにもつながります。

しかし、当所に持ち込まれる相談の中には、剪定が原因となって衰弱してしまったケースが時折見られます。特にマツの場合に多く見られるので、マツの剪定についてまとめました。

剪定の誤りにより枯れたマツの枝



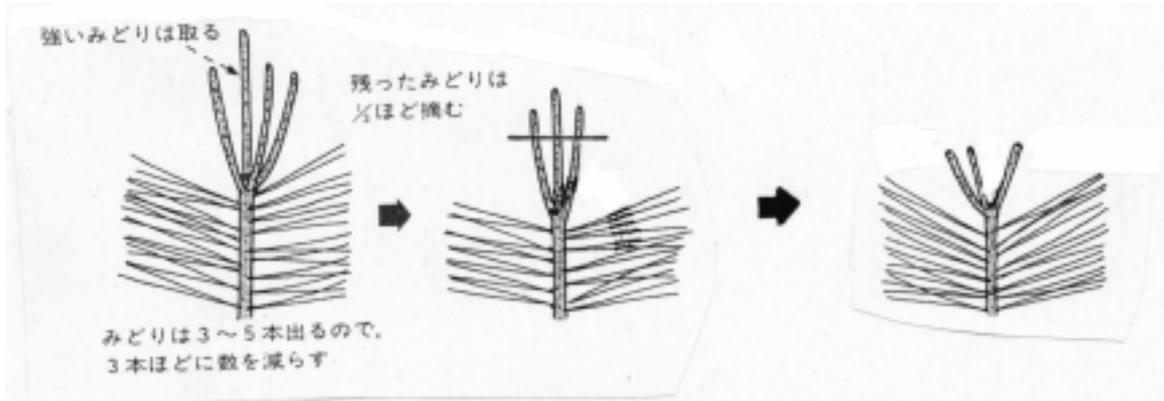
マツの剪定のポイント

マツは、夏までに来年の新芽を形成しますので、お盆過ぎにこの芽を摘んでしまうと、翌春は新芽が発生しなくなります。また形を整えるために秋に枝葉を刈り込むと、今年発生した新葉の多くが失われ、樹勢が衰えるきっかけとなります。樹勢が衰えると、病虫害に侵されて、衰弱がさらに進行します。

マツを剪定する場合には、枝を切る場合を除いて、ハサミを使わずに手を使って丁寧に作業をしなければいけません。そのためにマツの剪定には「みどりつみ」と「葉むしり」という特有の方法があります。

1. みどりつみ

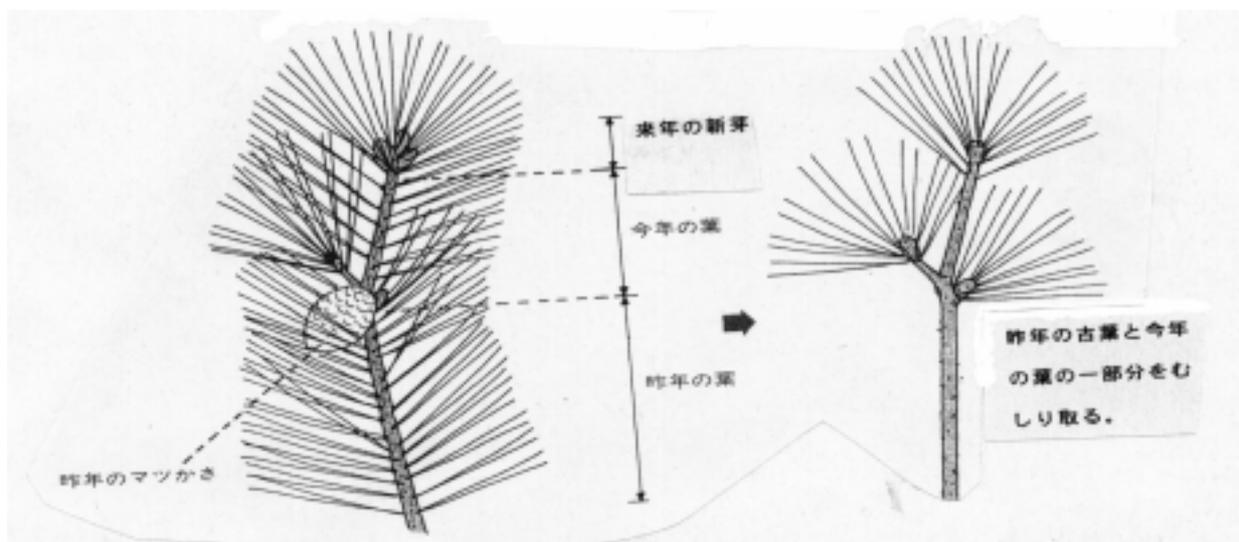
「みどりつみ」とは、5月頃新しく出た緑色の新梢（みどり）の一部を指先で摘み取り、全体の葉量を調整して成長を抑制しながら樹形を整える方法です。ちょうど手で摘み取れるくらいの柔らかさの 때가「みどりつみ」の適期です。「みどり」は1カ所から3～6本ほど出ますが、このうち真ん中で強く伸びている1本を根元から摘み取ります。残った「みどり」は3分の1くらいを摘みます。この作業は、成長を抑制するために行うものですから、樹勢が衰えている場合はその年に限り「みどり」を摘むことを控えてください。



2. 葉むしり（もみあげ）

美しいマツの樹形を保ち、病虫害を防除するためにも下枝までしっかりと陽が当たる必要があります。そこで、秋に、昨年のお古葉と今年の葉の一部分を手で軽くむしりとる「葉むしり（もみあげ）」という作業を行います。よけいな葉がなくなるので、風通しと日当たりが良くなります。

またこの時期に、枯れ枝や混みすぎている枝を、はさみで元から切ります。



大鋏でジャキジャキと刈り払って形を整える方法は、マツを弱らせるもっとも大きな原因になりますので、注意してください。

担当者 育林部 小山泰弘